

令和6年度 第2回会津若松市健康づくり推進協議会 会議録

- 1 日 時 令和6年11月20日（水）13：00～14：10
- 2 場 所 会津若松市生涯学習総合センター「會津稽古堂」研修室5・研修室6
- 3 出席者 委員12名（委員19名のうち7名欠席）
事務局：健康福祉部長、副部長、副部長兼健康増進課長、
健康増進課職員3名

4 会 議

(1)会長あいさつ

(2)議事（会長を議長として進行）

①（仮称）食のあいづっこ宣言について

・事務局（副部長兼健康増進課長）より資料説明を行い、質疑応答を行った。

【質疑応答】

議 長 : 事務局で特に強調したい点などはあるか。また、キーワード・スローガンとして掲げた7項目はどのように周知していくのか。

事務局 : 他の市町村と異なるのは、本市は7つスローガンを並べたところであり、本家「あいづっこ宣言」を踏まえ、「より詳しく、より楽しく」と考えている。
PRについては、様々な機会・場所を想定しており、市政だより・ホームページ・SNSでの情報発信も考えている。

関係団体委員 : 本家「あいづっこ宣言」は「〇〇しましょう」的な表現のため、食に関する呼びかけ的なものを想定しており違和感を覚えた。本家「あいづっこ宣言」は全国的に有名であり、これを引用した「〇〇あいづっこ宣言」も増え過ぎた感も否めず、素直にスローガンのみとしても良いと考える。宣言とするのであれば、本家「あいづっこ宣言」の表現を取り入れる必要があるのではないか。

事務局 : 本家「あいづっこ宣言」は会津藩「仕の掟」を引用したもので、「仕」が意味する「集団」に対する教えが由来となっているため、人をいたわる、ありがとう・ごめんなさいを言う、我慢をするなど、基本的に子どもも覚えやすい教育的なスタンスと考えられる。本家「あいづっこ宣言」は6つの教えに加えて、ならぬことはならぬで締められている構成だが、「食のあいづっこ宣言」はスローガン的な要素が強いと考える。

保健医療団体委員 : 大喜利（あいうえお作文）みたいにタテ読みさせることに無理があるように思えるし、わかりづらい気もする。シンプルなほうが良いと考えるため、再度練り直す検討も必要かと。例えば、「いただきます・ごちそうさまを言う」など、キーワードを簡潔にまとめた宣言にすると、本家の表現に近づくことにも繋がるのではないか。

議 長 : 2名の委員の意見を整理すると、宣言の名称と内容が混在して議論されている。内容については、両委員とも似通ったものと思われるが、宣言の名称についてはいかがか。

関係団体委員：食育推進計画において「（仮称）食のあいづっこ宣言」の設定を目指すことになっているが、仮称につき宣言からの変更も可能なのでは。子どもたちは本家「あいづっこ宣言」の暗記に取り組んでいるが、こちらは同様の取組には向かないと考える。

保健医療団体委員：同様の宣言が多すぎて、いろいろと負荷が発生しているため、せめて誰でも簡単に言えるぐらいの範囲に納められたほうが良い。キーワードを簡潔に伝えるぐらいの宣言の想定とし、イラストみたいに1枚にまとめるスタイルだと伝わりやすいかなと考える

関係団体委員：先ほどからの意見の中で、本家「あいづっこ宣言」は子どもに対する教えのような取り扱いだったが、子どもだけのものではない。これは会津に住む大人も子どもも、すべての方にこのような精神や気持ちで過ごして欲しいというもの。大人たちが本家宣言に基づく行為や言葉を通して、何も知らない子どもたちを導いていく意味も込められている。確かに本家以外の宣言も存在するが、食育推進計画策定時に「食のあいづっこ宣言」を作りましょうと決めたからには、作るべきだと考える。

また、「〇〇しましょう」と押し付けるようなものではなく、体言止めや「食のあいづっこ」の頭文字を使った表現もひねりがあって良いと思うし、表現自体を変えることに問題はないが、食育の大切なフレーズがすべて網羅されており、盛り込みすぎかもしれないが、外せないものばかり。さらに「バランスの良い食事」も加えていただきたいし、適塩より減塩としても良いと思う。

なお、これを全部一気に取り組むのが現実的でなければ、例えば1つのスローガンに対して1年間ずつ重点的に取り組むこととして良いものとする。

事務局：事務局としては、名称については、仮称ではあるものの、食育推進計画策定時に「食のあいづっこ宣言」を作ると決定した経緯があり、この位置づけをこの段階で変えることはできないと考えている。

議長：計画策定時からの経緯もあり、この名称で進めていきたい方針とのこと。いずれ検討する余地があれば、変化していく可能性はあるので、現段階の方針についてご理解をいただき、ご了承いただきたいがいかがか。（反対意見なし）

ないようであれば、宣言の設定に向けて議論したい。先ほどの意見にあった情報量についてはどうか。キャッチフレーズではないので、このままでも問題があるわけではないが、簡潔にすべきとか、覚えるインパクトを重視すべきとか、量の問題がある。市としてこれを張り出すような考えはあるのか。

事務局：スローガンを1行にまとめている市町村もあるが、宣言の設定に際しては、重要な項目を絞り込むよりは、すべて盛り込んだほうが良いだろうという思いがあった。周知については、市のホームページ等での掲載を予定している。

保健医療団体委員：先ほどの発言の意図は、情報量が多い問題ではなく、キーワードは全部入れたほうが良いが、表現方法を簡潔明瞭にすべきというもの。頭文字のタテ読みとキーワードが混在するので、簡潔明瞭な表現のほうが伝わりやすいのでは。

議長：表現について「〇〇しましょう」と体言止めの件があった。事務局案も統一感はあるものの、あくまでわかりやすく・覚えやすくという観点からの意見と思われたが、この点はどう受け止めたか。

事務局：様々な表現がある中で、「〇〇しましょう」は長くなることに加えて、押し付けの要素も発生するため、今の時代にそぐわないのかなという思いもある。

あくまでスローガンなので、体言止めという手法でコンパクトに伝えられればという狙いだが、結果して内容が盛り沢山でコンパクトにはならなかった。

関係団体委員： タテ読みを生かして欲しい。少しも悪くないし、ちゃんと繋がっているし、言いたいことがすべて入っていて、よく考えたと思う。

事務局： 委員の皆さんに、タテ読みの手法について、このまま生かすべきかどうか、その方向性についてご意見をいただきたい

保健医療団体委員： 個人的には「食のあいづっこ宣言」が子どものためだけでなく、子どもを含めた会津で暮らす人に向けたものであって良いと思う。

また、タテ読みについても生かして欲しいと思う。インパクトがあり、覚えようとするきっかけになる。語呂合わせといえどもそれまでだが、うまくこじつけたなという気はするので、生かしてもらったほうが目に留まると思う。

関係団体委員： タテ読みはインパクトがあり、記憶に入ってきてやすいと思う。

ただ、食育のわ（環・輪・和）は、併記された説明がないと理解できないので、子ども目線も含めると簡単に理解できるような表現にする必要があるのではないかと感じた。

議長： タテ読みに対する肯定的な意見が多かったので、事務局においては、その方向に加えて、出された意見についても検討いただきたい。時間の関係もあり、議事を進めたいので、他に意見があれば、後ほど何う時間を設けたい。

②（仮称）健康づくり推進条例について

・事務局（副部長兼健康増進課長）より資料説明を行い、質疑応答を行った。

また、現在、庁内協議検討段階であり、前回協議会において示した制定スケジュールから、少し延長になる旨を追加説明した。

【質疑応答】

議長： まずは、多大なボリュームをペーパー１枚にまとめた点は評価したい。

関係団体委員： 「保健医療等関係者の役割」において、「市民が健康づくりに必要な保健医療サービスを適切に受けられるよう配慮する」とあるが、どのような内容でどの程度の予算を考えているのか。また、予算の見通しもあれば伺いたい。

事務局： この条例は「目的」に記載のあるとおり、「市の責務及び市民の役割等を明らかにするとともに、健康づくりの推進に関する基本的な事項を定める」もので、個別具体的な内容は記載しないイメージと捉えていただきたい。

予算は毎年度、市議会において予算審議を経て決定していくものであり、予定通り確保できるかは状況により変わることになるが、この条例は、予算や計画そのものの考え方を定めてお示しするもの。よって、この条例に基づいた計画の中で、個別具体的な施策を考え、それを推進するための事業予算を編成することになる。

イメージしやすい表現にすると、条例はこの先何年もの間、文言として変わらず残るものであるため、ルールや考え方などの大枠だけを決めておくもので、個別具体的な施策や取組みは、この条例の考え方に沿って策定する計画などでまとめていくというイメージで捉えていただきたい。

議長： この条例は総論であり、教科書みたいなものであるため、取り残された内容などがないかなど、各専門分野からの観点でまんべんなく見ていただきたい。

また、この健康づくり推進協議会は健康づくりに関する計画に関与する組織に位置づけられており、委員の皆様のご意見は重要視される責任と立場にある。ご意見も含め、質問・提案・確認など様々なご発言をいただきたい。

保健医療
団体委員： 市民一人ひとりが健康づくりに取り組むに際して、何をパラメータにするかなれば、コレステロールや糖尿病については検査を受ける必要があるため、健康に関与して自身で簡単に確認できるのは体重・血圧ぐらいであり、体重は頻繁に変わるものではないため、血圧を毎日計測することが重要になる。健診時の数値は緊張もあり当てにならないので、日常生活での血圧把握を継続実施するための血圧計購入補助等は有効な手段になると考える。血圧は、肥満でも塩分でも上がるし、簡単に確認できる健康づくり指標になり得る。

事務局： 補助金については、予算も関係してくる個別具体的な施策になるため、条例というよりは計画の範疇となり、その効果が5年後・10年後の目標値に対してどのようなかなどを評価して反映していくことになる。

③その他

【意見交換】

議長： その他、もしくは全体を通して、忌憚のないご意見をお願いしたい。

保健医療
団体委員： 宣言については「〇〇しましょう」がわかりやすいと考えていたものの、押し付けになると言われればそれも理解できることから、スローガンのような位置づけでも悪くはないと考える。

条例については、大枠に留めるのが一番効率的なものと感じた。よって、細かい部分は計画の中で決めていくということで間違いないか。

事務局： そのように考えていただいて結構。

関係団体
委員： 宣言についての意見として、案の1番目は「食への感謝」、2番目は「のぞましい食習慣」で留め、子どもたちにもわかるような補足説明的に、1番目は「いただきますとごちそうさまを言う」、2番目は先ほどの意見も取り入れ「バランスの取れた食事で健康に」などとまとめたらどうか。

事務局： 全体的にまとめれば、非常にシンプルで分かりやすくなると思う。

関係団体
委員： 「食のあいづっこ宣言」に関連して、スポーツや運動の宣言については何か考えていないのか。健康づくりに関しては、食とスポーツは両輪になるものと考えている。

事務局： スポーツに関する意見として、所管の教育委員会に申し送りしておく。

議長： 最後に確認だが、あいづっこの「こ」は子どもの「子」ではないで良いか。

関係団体
委員： 漢字の「子」ではなく、ひらがなの「こ」であり、子どもだけではなく、年齢に関係なく会津に住む市民みんなということ。

事務局： 「江戸っこ」や「どさんこ」をイメージしていただきたい。

※議事終了（議長解任）

(3)その他 令和6年度版「健康のおもてなしの店」チラシの紹介と周知方法

5 閉 会